

令和元年度 農山漁村振興交付金(農泊推進対策) 事業実施主体 評価一覧

1. 事業評価の実施

令和元年度に実施された「農山漁村振興交付金(農泊推進対策)」の事業について、「農山漁村振興交付金(農泊推進対策)実施要領」(平成30年3月28日付け29農振第2292号農林水産省農村振興局長通知)第14の1の規定に基づき、評価を行ったので、その結果を公表する。

2. 事業評価結果の総括

令和元年度に交付金事業を実施した北海道内の32地区について、取組の実施状況、成果等を総合的に評価した。その結果、優良と認められる地区が20地区、良好と認められる地区が6地区、低調と認められる地区が6地区との評価結果となった。低調と認められる地区に対しては、重点的な指導、助言等を行う。

3. 各地区の評価結果 32件

| 農政局等 | 都道府県 | 市町村 | 事業実施主体名 | 事業実施段階 | | | | | 評価 | 評 価 コ メ ン ト |
|-------|------|-----|--|--------|-------------|----|----|----|----|-----------------------|
| | | | | H29 | H30 | R元 | R2 | R3 | | |
| 農村振興局 | 北海道 | 三笠市 | 三笠地域における「農」と「食」の連携推進協議会 株式会社三笠すずき農園 | ● | ● ■ ★ | ◆ | | | C | 総合的に目標の達成状況が低調と認められる。 |
| 農村振興局 | 北海道 | 七飯町 | 七飯大沼農泊観光推進協議会 どさんこミュゼ株式会社 | ● ★ | ● ■ ★ | ◆ | | | C | 総合的に目標の達成状況が低調と認められる。 |
| 農村振興局 | 北海道 | 鹿追町 | 鹿追町農泊推進協議会 一般社団法人En | ● ★ | ● ■ | ◆ | | | A | 総合的に目標の達成状況が優良と認められる。 |
| 農村振興局 | 北海道 | 余市町 | 余市町観光地域づくり協議会 | | ● ■ | | | | C | 総合的に目標の達成状況が低調と認められる。 |
| 農村振興局 | 北海道 | 留萌市 | 特定非営利活動法人 留萌観光協会 | | ● ■ | | | | A | 総合的に目標の達成状況が優良と認められる。 |
| 農村振興局 | 北海道 | 小平町 | 小平町農泊ビジネス推進協議会 | | ● ■ | | | | A | 総合的に目標の達成状況が優良と認められる。 |
| 農村振興局 | 北海道 | 更別村 | 更別グランファームツーリズム推進協議会 | | ● ■ | | | | A | 総合的に目標の達成状況が優良と認められる。 |

(注1) 「事業実施段階」の凡例: ソフト対策 ○・・交付対象年度(計画) ●・・交付対象年度(実施済) □・・目標年度(計画) ■・・目標年度(実施済)
ハード対策 ☆・・交付対象年度(計画) ★・・交付対象年度(実施済) ◇・・目標年度(計画) ◆・・目標年度(実施済)

(注2) 「評価」の区分: A・・優良 B・・良好 C・・低調

| 農政局等 | 都道府県 | 市町村 | 事業実施主体名 | 事業実施段階 | | | | | 評価 | 評価コメント |
|-------|------|-------|-------------------------------|--------|--------|--------|--------|----|----|-----------------------|
| | | | | H29 | H30 | R元 | R2 | R3 | | |
| 農村振興局 | 北海道 | 滝上町 | 滝上町農泊観光地域づくり協議会 | | ● | ● | | | A | 総合的に目標の達成状況が優良と認められる。 |
| 農村振興局 | 北海道 | 北広島市 | 北広島市農泊交流協議会 | | ● | ■ | | | A | 総合的に目標の達成状況が優良と認められる。 |
| 農村振興局 | 北海道 | 帯広市 | 帯広ファームトリップ推進協議会 | | ● | ■ | | | A | 総合的に目標の達成状況が優良と認められる。 |
| 農村振興局 | 北海道 | 平取町 | 平取町地域活性化協議会 | | ● | ■ | | | B | 総合的に目標の達成状況が良好と認められる。 |
| 農村振興局 | 北海道 | 大空町 | 大空町地域雇用創出協議会 | | ● | ■ | | | A | 総合的に目標の達成状況が優良と認められる。 |
| 農村振興局 | 北海道 | 比布町 | 世界一大雪山がきれいに見える町びっふ農泊体験推進協議会 | | ● | ■ | | | B | 総合的に目標の達成状況が良好と認められる。 |
| 農村振興局 | 北海道 | 網走市 | オホーツク農山漁村活用体験型ツーリズム推進協議会 | | ● | ■ | | | B | 総合的に目標の達成状況が良好と認められる。 |
| 農村振興局 | 北海道 | 浦幌町 | 浦幌農泊観光促進協議会 | | ● | ■ | | | A | 総合的に目標の達成状況が優良と認められる。 |
| 農村振興局 | 北海道 | 標津町 | 標津町地域協議会 | | ● | ■ | | | A | 総合的に目標の達成状況が優良と認められる。 |
| 農村振興局 | 北海道 | 八雲町 | 特定非営利活動法人やくも元気村 | | ● ★ | ● ★ | ◇ | | A | 総合的に目標の達成状況が優良と認められる。 |
| 農村振興局 | 北海道 | 石狩市 | いしかり古民家活用地域活性化協議会 株式会社AI建築 | | ● ★ | ● ★ | ◇ | | A | 総合的に目標の達成状況が優良と認められる。 |
| 農村振興局 | 北海道 | 美唄市 | びばい食農アートまちづくり推進協議会 | | | ● | ○ □ | | A | 総合的に目標の達成状況が優良と認められる。 |
| 農村振興局 | 北海道 | 新十津川町 | 新十津川農泊推進協議会 | | | ● | ○ □ | | B | 総合的に目標の達成状況が良好と認められる。 |
| 農村振興局 | 北海道 | 深川市 | 深川市農泊推進協議会 | | | ● | ○ □ | | A | 総合的に目標の達成状況が優良と認められる。 |
| 農村振興局 | 北海道 | 長万部町 | 長万部町観光地域づくり協議会 | | | ● | ○ □ | | C | 総合的に目標の達成状況が低調と認められる。 |
| 農村振興局 | 北海道 | 八雲町 | 落部ブルーツーリズム推進協議会 | | | ● | ○ □ | | C | 総合的に目標の達成状況が低調と認められる。 |

(注1) 「事業実施段階」の凡例: ソフト対策 ○・・交付対象年度(計画) ●・・交付対象年度(実施済) □・・目標年度(計画) ■・・目標年度(実施済)
ハード対策 ☆・・交付対象年度(計画) ★・・交付対象年度(実施済) ◇・・目標年度(計画) ◆・・目標年度(実施済)

(注2) 「評価」の区分: A・・優良 B・・良好 C・・低調

| 農政局等 | 都道府県 | 市町村 | 事業実施主体名 | 事業実施段階 | | | | | 評価 | 評価コメント |
|-------|------|------|---------------------------|--------|-----|----|----|----|----|-----------------------|
| | | | | H29 | H30 | R元 | R2 | R3 | | |
| 農村振興局 | 北海道 | 旭川市 | 大雪農泊ビジネス協議会 | | | ● | ○ | | A | 総合的に目標の達成状況が優良と認められる。 |
| 農村振興局 | 北海道 | 夕張市 | 夕張ファームステイ推進協議会 | | | ● | ○ | | A | 総合的に目標の達成状況が優良と認められる。 |
| 農村振興局 | 北海道 | 豊頃町 | 一般社団法人ココロコ | | | ● | ○ | | A | 総合的に目標の達成状況が優良と認められる。 |
| 農村振興局 | 北海道 | 美幌町 | 美幌町観光まちづくり協議会 | | | ● | ○ | | B | 総合的に目標の達成状況が良好と認められる。 |
| 農村振興局 | 北海道 | 幌加内町 | 幌加内ファームステイ推進協議会 | | | ● | ○ | | A | 総合的に目標の達成状況が優良と認められる。 |
| 農村振興局 | 北海道 | 広尾町 | ピロツーツーリズム推進協議会 | | | ● | ○ | | B | 総合的に目標の達成状況が良好と認められる。 |
| 農村振興局 | 北海道 | 北見市 | 北見市農泊推進協議会 | | | ● | ○ | | A | 総合的に目標の達成状況が優良と認められる。 |
| 農村振興局 | 北海道 | 函館市 | 函館歴史建築活用協議会 株式会社NOTE函館 | | | ● | ○ | ◇ | C | 総合的に目標の達成状況が低調と認められる。 |
| 農村振興局 | 北海道 | 帯広市 | 十勝域内「農泊」観光連携協議会 | | | ● | ■ | | A | 総合的に目標の達成状況が優良と認められる。 |

(注1) 「事業実施段階」の凡例: ソフト対策 ○・・・交付対象年度(計画) ●・・・交付対象年度(実施済) □・・・目標年度(計画) ■・・・目標年度(実施済)
ハード対策 ☆・・・交付対象年度(計画) ★・・・交付対象年度(実施済) ◇・・・目標年度(計画) ◆・・・目標年度(実施済)

(注2) 「評価」の区分: A・・・優良 B・・・良好 C・・・低調

4. 第三者機関の意見聴取

農山漁村振興交付金実施要綱第6の規定に基づき、第三者機関である「農山漁村振興交付金(農山漁村普及啓発対策及び農山漁村交流対策)評価委員会」を組織し、評価に当たり意見の聴取を行った。評価委員会の委員及び開催概要は以下のとおり。

【評価委員会 委員】

委員長:大江靖雄(東京農業大学教授)

委員:市田知子(明治大学教授)、加藤由紀子(北海商科大学教授)、木村宏(北海道大学教授)、森久美子(作家)

【令和2年度評価委員会の開催概要】

第1回評価委員会

- 1 日 時 :令和2年9月17日(木) 13:30～17:45
- 2 場 所:【Web会議】(東京会場)農林水産省農村振興局農村政策部長室、(札幌会場)北海道農政事務所 大会議室
- 3 議事概要
 - ① 令和2年度評価対象地区の評価方法について
本年度の評価方法について、説明を行い、了承を得た。
 - ② 令和2年度評価対象地区の評価について
令和元年度に事業を実施した32地区について、取組概要、評価案及び評価が低調となる地区に対する重点指導案に関して説明し、質疑応答を行った。
- 4 主な意見
 - 取組が低調である地域に対しては、宿泊施設の質の向上と、滞在日数を如何にして伸ばせるかについて具体的に指導・助言をしていくべき。

第2回評価委員会

- 1 日 時:令和2年10月7日(水) 10:30～12:00
- 2 場 所:東京農業大学
- 3 概 要
 - ① 令和2年度評価対象地区の評価について
令和元年度に事業を実施した32地区について、評価案等に関して、了承を得た。
- 4 主な意見
 - COVID-19により社会の行動基準が変容する中、特にインバウンドをターゲットとしている地区の評価に当たっては、評価基準を見直すことについて議論が必要。

農山漁村振興交付金(農泊推進対策) 重点指導結果

事業実施主体名:更別グランファームツーリズム推進協議会

令和2年5月18日作成

| 都道府県名 市町村名 | 事業採択 年度 | 取組概要(農泊推進事業) | 取組概要(施設整備事業(活性化整備計画に基づかない)) |
|---------------|------------|---|-----------------------------|
| 北海道 更別町 | H30年度 | 農・食・宿・体験・交流・移動を包括したオーダーメイドツアーや大手キャンプ用品会社と連携するしたツアーの提供などによりミドルアッパー層やアッパークラスに訴求した受入体制を整備。 | 該当なし |

1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

本来、高額商品であるこのツアーの販売は、コンシェルジュや顧客との関係性構築が重要であり、日数を要するところ、ターゲットである富裕層客とネットワークをもつコンシェルジュとの協力体制構築やツアーの内容と魅力を顧客へ発信することに充てた時間が短く、目標の達成がほとんど見受けられなかったため、集客活動に注力すること。

2. 低調と評価された要因

- ・目標設定が高すぎた。高額商品であることから、本来顧客または協力者との関係性作りには時間がかかるはずであったが、見積もりが甘かった。結果として、売上は飲食分のみに留まり、売上、宿泊者数ともに、目標の達成がほとんど見受けられなかった。
- ・受け入れ体制が万全でなく、不安から具体的な営業を行えなかったことが原因であると考える。

3. 目標達成に向けた方策

- ・顧客または協力者との関係性作りに力を入れ、受け入れ体制の強化を図る。
- ・商品の魅力は伝わっていると思われるので、具体的なインセンティブ契約等を進め営業活動を行う。

4. 改善状況

昨年度課題となった営業活動については、複数の旅行会社に対して積極的に、時間をかけて関係の構築を行ったことにより、ツアーの魅力をしっかり伝えることができ、実際の送客予定にまで結びつけることができた。
また、受入体制強化として、コンテンツガイドや地域協力者の分担率を増加させ、アテンドガイドの分担率を減らすことで、アテンドガイド参入障壁を下げた。
モニターツアーでは、「ここでしか食べられない食、ここでしか見られない景色、ここでしか出会えない人との交流が素晴らしい」「まさに富裕層向けでぴったりはまる」など高評価を得ることができた。また、モニターツアーでは、富裕層をもてなすプロからコツや改善点の指導を受けられたことで、洗練されたオペレーションが可能になるとともに、顧客を送客する立場である彼らが本ツアーの魅力を感じ深く共感することで、送客意欲を確かなものとし、互いが送客と受け入れ時の具体的なイメージをすり合わせることもできた。

農山漁村振興交付金(農泊推進対策) 重点指導結果

事業実施主体名:オホーツク農山漁村活用体験型ツーリズム推進協議会

令和2年5月18日作成

| 都道府県名 市町村名 | 事業採択 年度 | 取組概要(農泊推進事業・人材活用事業) | 取組概要(施設整備事業(活性化整備計画に基づかない)) |
|---------------|------------|--|-----------------------------|
| 北海道 網走市 | H30年度 | 地域内で共有認識を深める取組や体験メニューの構築及び一次産業のフィールドを案内できる優良ガイドを育成するなどインバウンド及び個人旅行者に対応した受入れ体制を整備 | 該当なし |

1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

・一次産業のフィールドを案内できるガイドや北海道知事認定の登録ガイドを確保し、人材や移動インフラを整備するなど、受入体制を構築できているが、さらなる地域内の合意形成を図り、地域住民参加型観光の実施体制が構築できるように、関係機関と十分情報を共有しつつ事業を進めること。また、体験・交流の情報発信拠点を整備し、インバウンド及び個人旅行者に対応した窓口機能を構築していることから、平成30年度に収集したPR素材を活用しながら、地域の魅力向上や集客に向けた取組を実施するとともに、宿泊施設と連動した体験メニューの構築等、引き続き体験メニューの充実を図ること。

2. 低調と評価された要因

・作成したプログラムのモニターツアーを年明けに実施し、オホーツク地域内に情報発信のためのカード設置やWEBサイト開設をしたが、発信期間が一月と短かったため、ツアーを販売するまでに至らなかった。
結果として、売上は飲食分のみになり、売上、宿泊者数ともに、目標の達成がほとんど見受けられなかった。

3. 目標達成に向けた方策

・一次産業のフィールドを観光コンテンツ化することに対する対処法を確立する。また、一次産業のフィールドへの立ち入り許可を取った上で、地域住民参加型の体験メニューを開発。
・宿泊施設と連動した体験メニューの構築。
・地域内の合意形成を図り、地域住民参加型観光の実施体制が構築できるように、関係機関と十分情報を共有しつつ事業を進める。

4. 改善状況

・地域内に一次産業をガイドできる人材を9名新たに確保するとともに、観光化することへの対処法を確立したことにより、一次産業のフィールドを新しく観光につなげることができた。また、体験メニューおよびツアーは、約50種類を構築し、令和元年度で約850名の旅行客を受入。特に、インフラを担うバス会社との連携事業として行ったレストランバスは、地域内の飲食業、生産者がつながる仕組みを構築し、旅行客および地域内からも好評価を得ることができると、事業1年目に対して、飲食・体験・宿泊の売上げも伸び、目標を概ね達成(売上72%、宿泊者数93%)することができた。今後は、宿泊施設が企画するツアーに、体験メニューを組み込んで、地域への入込数、宿泊者数を増加させていく取組に注力していきたい。

・また、農家への教育旅行の受入や体験型観光を地域一体的に推進することを目的に管内7団体で構成する「オホーツク農村ツーリズム連携会議」が立ち上がり、本協議会も参画したことから、広域周遊ルートの作成やガイド育成、教育旅行の受入調整などの仕組みづくりを目指し、農泊事業の取組を加速させていく。